

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		<input type="checkbox"/>	
科目名	コミュニケーション論			担当講師	岡崎 宏、稲川 良、田中 眞一、石渡 千沙絵、松本 典之、高堀 雅子、根本 皇太		
分野	基礎	授業方法	講義	実務経験			
単位数	4 単位	時 間	60 時間	学 年	1年次	学 期	通年
概 要	社会・医療現場で求められるコミュニケーションについて理論及び実践を学ぶ						
到達目標	1. コミュニケーションの基本が理解できる 2. 丁寧に聞くための傾聴力を身に付けることができる 3. わかりやすく伝える表現力を身に付けることができる 4. 対人関係を営むための関係力を身につけることができる 5. 言語聴覚士としてのコミュニケーションの評価ができる						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	コミュニケーションの必要性を知る①～医療専門職のコミュニケーション～
2	コミュニケーションの必要性を知る②～医療専門職のコミュニケーション～
3	医療者のコミュニケーション（1人称から3人称のコミュニケーションへ）
4	自己実現に向けて①～言語聴覚療法学科教員との関わりを通して～
5	自己実現に向けて②～言語聴覚療法学科教員との関わりを通して～
6	自己実現に向けて③～言語聴覚療法学科教員との関わりを通して～
7	自己実現に向けて④～言語聴覚療法学科教員との関わりを通して～
8	医療者としてのコミュニケーションを大まかに理解できる①「傾聴力、表現力、関係力」
9	医療者としてのコミュニケーションを大まかに理解できる②「傾聴力、表現力、関係力」
10	コミュニケーション技術演習①（相手を知ろう・自分を知らせよう）
11	コミュニケーション技術演習②（相手を知ろう・自分を知らせよう）
12	自己実現に向けて⑤～言語聴覚療法学科教員との関わりを通して～
13	自己実現に向けて⑥～言語聴覚療法学科教員との関わりを通して～
14	自己実現に向けて⑦～言語聴覚療法学科教員との関わりを通して～
15	自己実現に向けて⑧～言語聴覚療法学科教員との関わりを通して～
16	社会人として求められる礼儀・マナーを理解し、説明できる
17	医療場面におけるコミュニケーションを理解し、説明できる①～患者編～
18	医療場面におけるコミュニケーションを理解し、説明できる②～家族編～
19	医療場面におけるコミュニケーションを理解し、説明できる③～他職種編～
20	言語聴覚士としてコミュニケーションの評価方法を学ぶ①
21	言語聴覚士としてコミュニケーションの評価方法を学ぶ②
22	言語聴覚士としてコミュニケーションの評価方法を学ぶ③
23	言語聴覚士としてコミュニケーションの評価方法を学ぶ④
24	言語聴覚士としてコミュニケーションの評価方法を学ぶ⑤
25	言語聴覚士としてコミュニケーションの評価方法を学ぶ⑥

26	言語聴覚士としてコミュニケーションの評価方法を学ぶ⑦
27	言語聴覚士としてコミュニケーションの評価方法を学ぶ⑧
28	言語聴覚士としてコミュニケーションの評価方法を学ぶ⑨
29	言語聴覚士としてコミュニケーションの評価方法を学ぶ⑩
30	言語聴覚士としてコミュニケーションの評価方法を学ぶ⑪
評価方法	前期：プレゼンテーション(100%)、後期：レポート(100%)にて評価する
教科書	随時、資料配布する
参考書	
備考	

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input type="checkbox"/>		
科目名	倫理学			担当講師	町田 一		
分野	基礎	授業方法	講義	実務経験			
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	前期
概 要	<p>「学問を学ぶ」これには、二つの意味がある。一つは、学ぶ人自身がその学問を自ら「する」ことができるようになること。もう一つの意味は、その学問について語れるようになること。その学問で使われる言葉（術語）の意味を覚えて使えるようになることや、議論されている内容について語れるようになることと考えます。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の尊厳について、自分の考えを述べることができる。 2. いのちの教育の必要性を述べることができる。 3. 生物と共存するための道を自分なりの考えで述べることができる。 4. 患者の権利を述べることができる。 5. 患者の権利運動の歴史的背景を述べることができる。 6. 自己決定権について、自分なりの考えを述べることができる。 7. 脳死の判定基準を述べることができる。 8. 脳死と植物状態を区別して述べることができる。 9. 安楽死と尊厳死と自然死の違いを述べることができる。 						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	倫理学とは						
2	カントの定言命法						
3	功利主義						
4	アリストテレスの中庸						
5	心情倫理の難点						
6	結果倫理の難点						
7	パーソン論						
8	生命の始まりをめぐる問題						
9	中絶擁護の意見						
10	安楽死						
11	安楽死②						
12	人間中心主義から脱人間中心主義へ						
13	まとめ						
14	まとめ						
15	まとめ						
評価方法	終講試験100%により学修成果を判定する						
教科書	(指定教科書なし)						
参考書							
備 考							

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input type="checkbox"/>		
科目名	社会学			担当講師	小笠原 尚宏		
分野	基礎	授業方法	講義	実務経験			
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	前期
概 要	社会という現象を実感として知る。						
到達目標	<p>主に次の2つのテーマをとりあげ、それぞれ具体的な事例に即して考えていく。社会学の基本的な考え方や概念、理論についても紹介する。</p> <p>1. 「働く」ということ（ルール論・職業論）： 企業組織と個人との関わりを考える。組織の中で期待されるふるまいとは何か。所属する組織の規模・雇用形態・性別によって異なる人の職業生活。現代日本社会の特徴と将来の展望。</p> <p>2. 「私である」ということ（自己論）： 社会的自己の形成のしくみを考える。「私らしさ」とは何か。社会的自己の形成のメカニズム。さまざまな「私」を許容する社会へ向けて。</p>						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	社会とは何か						
2	社会と個人、社会学の課題						
3	社会関係						
4	社会化						
5	類型化、社会集団論						
6	家族の家族定義						
7	核家族論、家族機能と外部化						
8	家族問題						
9	近代家族論						
10	55年後の社会と私を考える						
11	ライフコース						
12	ジェンダー						
13	産業、労働① 産業化						
14	産業、労働② 雇用とその変化						
15	消費生活をめぐる動向						
評価方法	終講試験（100%）						
教科書	大学生のための社会学入門 晃洋書房						
参考書							
備 考							

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input type="checkbox"/>		
科目名	心理学			担当講師	松井 進		
分野	基礎	授業方法	講義	実務経験			
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	前期
概 要	<p>「なぜ人はその時、その場面でそのような行動をしたのか？」という問いに答えるのが心理学であるとも言われる。意識の学としてはじまった心理学は、行動の学として発展している。行動の特徴や性質を究明したい。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人が社会の中で適応して行動するためには、子供の時からの学習が必要であり重要であることを説明できる。 2. 野生児が人間社会で生活することはむずかしいことが説明できる。 3. 鳥類等のひなが生きるためにはインプリンティングが必要であることを説明できる。 4. 何ごとによらず幼い時の経験が後の生活に大きな影響を及ぼすことを説明できる。 5. 知らず知らずわれわれの行動はいろいろな刺激と結びついている（古典的条件付け）を説明できる。 6. パチンコに限らず賭け事（ギャンブル）は、成功するとやめられなくなることを説明できる。 						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	ガイダンス、心理学史						
2	心理学史、研究法						
3	実験法、調査法、検査法						
4	感覚の種類と閾値、						
5	色覚、三原色説、図と地						
6	反転図形、群化の要因、錯視、奥行き知覚						
7	奥行き知覚の手がかり、運動の知覚						
8	記憶モデル						
9	長期記憶とその分類、想起法						
10	エビングハウスの実験、忘却説						
11	問題解決とその影響因						
12	馴化とその特徴、古典的条件付け						
13	パブロフ実験、情動条件付け、消去・回復、ソーンダイク実験						
14	オペラント条件付けの原理						
15	性格（類型論）						
評価方法	終講試験(100%)						
教科書	系統看護学講座 心理学 医学書院						
参考書							
備 考							

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input type="checkbox"/>		
科目名	生物学			担当講師	松ヶ野 友里		
分野	基礎	授業方法	講義	実務経験			
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	前期
概 要	人間を含めて、全ての生物の体は細胞という小単位から成り立っている。細胞はさらに細胞膜や細胞内小器官などから構成されている。そして、細胞が行う活動はタンパク質や核酸などの生体高分子が担っている。本講義では一般的な細胞像を概観し、さらに細胞が担ういくつかの生命現象を分子レベルで解説する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 細胞内小器官とその機能について説明できる。 2. 細胞の機能と細胞分裂について説明できる。 3. 古典的な遺伝法則について説明できる。 4. 遺伝子として働くDNAについて、その構造および遺伝情報の発現メカニズムについて理解できる。 						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	ガイダンス、細胞構造						
2	細胞小器官、生体物質						
3	細胞周期、細胞分裂①						
4	細胞分裂②						
5	小テスト①（細胞構造、細胞分裂）、遺伝法則①						
6	遺伝法則②						
7	科学史（DNA）①						
8	科学史②、DNA構造						
9	DNA複製①						
10	DNA複製②						
11	小テスト②（遺伝法則、DNA構造）						
12	セントラルドグマ（転写）						
13	セントラルドグマ（翻訳）						
14	授業進度に応じて検討						
15	授業進度に応じて検討						
評価方法	小テスト：50%（小テスト①：25%、小テスト②：25%） 終講試験：50%						
教科書	系統看護学講座 基礎分野 生物学 医学書院						
参考書	配布資料						
備 考							

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input type="checkbox"/>		
科目名	情報処理			担当講師	阿部 国和、石渡 千沙絵、高堀 雅子		
分野	基礎	授業方法	講義・実技	実務経験			
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	前期
概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・ Word、Excel、PowerPointのアプリケーションソフトの基本的なコンピュータ操作を習得できる、 ・ 発表会資料の作成に活用することができる 						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. アプリケーションソフトの基本操作が実践できる 2. 提出物の期限を守ることができる 3. 指導に対する自己修正ができる 4. 報告書を作成することができる 5. 傾聴力を身に付けることができる 6. 表現力を身に付けることができる 						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	WiFi接続、サイボウズ、みんなの体調ノート、ZOOM、メディカルオンラインの使用方法						
2	Word、Excelの基本操作①～講義室の機器の使い方、学級日誌～						
3	Word、Excelの基本操作②～自己紹介シート～						
4	Word、Excelの基本操作③～発表会に向けた報告書、要旨の作成～						
5	Word、Excelの基本操作④～発表会に向けた報告書、要旨の作成～						
6	Word、Excelの基本操作⑤～発表会に向けた報告書、要旨の作成～						
7	PowerPointの基本操作①～プレゼンテーション資料の作成～						
8	PowerPointの基本操作②～プレゼンテーション資料の作成～						
9	PowerPointの基本操作③～プレゼンテーション資料の作成～						
10	PowerPointの基本操作④～スライドショー、アニメーションの利用						
11	PowerPointの基本操作⑤～スライドショー、アニメーションの利用						
12	PowerPointの基本操作⑥～スライドショー、アニメーションの利用						
13	著作権について						
14	ZOOM操作の基本						
15	報告書の修正、提出						
評価方法	課題レポート（100%）で評価する						
教科書	配布資料						
参考書							
備 考							

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input type="checkbox"/>		
科目名	公衆衛生学			担当講師	酒井 聖子		
分野	基礎	授業方法	講義	実務経験			
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	前期
概 要	<p>WHOでは、公衆衛生学を次のように定義している。「組織された地域社会の努力を通して、疾病を予防し、生命を延長し、身体的、精神的機能の増進をはかる科学であり技術である。」特定の集団に対して、上記のことを考える場合に必要な知識、考え方を学ぶ。</p>						
到達目標	<p>以下のことを説明できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生学とは何か説明できる。 2. 健康、健康増進とは何か説明できる。 3. 感染症、疾病予防、生活習慣病予防について説明できる。 4. 公衆衛生に対しての国の役割を説明できる。 5. 公衆衛生に対しての市町村の役割を説明できる。 6. 公衆衛生に対して言語聴覚療法士が何が出来るか説明できる。 						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	公衆衛生学とは						
2	人口の動向						
3	妊娠・出産と胎児の保健						
4	新生児・乳幼児期の保健（母子保健）						
5	青少年の保健（学校保健）						
6	成人期の保健						
7	老年期の保健						
8	心の健康と心身障害						
9	環境衛生（生活環境の保全）						
10	環境汚染と公害						
11	感染症とその予防						
12	食物と健康（食品保健）						
13	職業生活と健康（産業保健）						
14	保健・医療の行政						
15	国際保健、まとめ						
評価方法	終講試験（100%）						
教科書	社会・環境と健康 公衆衛生学(2023年版)			医歯薬出版			
参考書							
備 考							

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input type="checkbox"/>		
科目名	統計学			担当講師	佐用 寛文		
分野	基礎	授業方法	講義	実務経験			
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	前期
概 要	<p>統計は科学的な推論や考察においてその根拠を示す基となる重要なものである。この講座では記述統計学および推計学の基礎を学ぶ。そして統計処理が必要になった場合にどのように処理すればよいかを見極めることができるようになることを目的とする。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 統計学とはどのようなものかを説明できる。 2. データのばらつきについて説明できる。 3. 正規分布について説明できる。 4. 仮説検定について説明できる。 5. 相関と回帰分布について説明できる。 6. 感度と特異度について説明できる。 7. リスク比とオッズ比について説明できる。 8. 様々な解析ができる。 						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	尺度						
2	代表値						
3	標準偏差						
4	四分位範囲						
5	正規分布						
6	仮説検定						
7	信頼区間						
8	データの読み方						
9	相関と回帰分布						
10	感度と特異度						
11	リスク比とオッズ比						
12	バイアスと交絡因子						
13	t 検定						
14	一元配置分散分析						
15	χ^2 検定						
評価方法	終講試験（100%）						
教科書	ゼロから学ぶ医薬統計教室 メディカルビュー社						
参考書							
備 考							

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input type="checkbox"/>		
科目名	英 語			担当講師	君塚 葉子		
分 野	基礎	授業方法	講義	実務経験			
単位数	4 単位	時 間	60 時間	学 年	1年次	学 期	通年
概 要	医療の国際化に伴い、外国人との交流や英文献の抄読の機会は、今後さらに拡大するであろう。その際のコミュニケーションのとり方や文献読解能力を養う。						
到達目標	以下のことを英文を読んで説明できる。 1 英語によるコミュニケーションのとり方を理解する。 2 英文献読解に必要な知識・技術が習得できる。 3 臨床における医学英語の意味を理解できる						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	Unit 1 General ideas of health
2	同 上
3	Unit 2 Polyphenol
4	同 上
5	Unit 3 Reducing your smartphon use
6	同 上
7	Unit 4 AI in health care
8	同 上
9	Unit 5 Japan's school lunches
10	同 上
11	Unit 6 Avoiding foods with hidden sugar
12	同 上
13	Unit 7 Periodontal disease
14	同 上
15	Unit 8 Creative lifestyle
16	同 上
17	Unit 9 The power of pets
18	同 上
19	Unit 10 Healthcare Policy
20	同 上
21	Unit 11 Healthcare Profession
22	同 上
23	Unit 12 Natural hot springs
24	同 上
25	Unit 13 Sleep debt

26	同 上
27	Unit 14 Alzheimer's disease
28	同 上
29	Unit 15 Vaccination
30	同 上
評価方法	終講試験（90%）、レポート課題・小テスト（10%）
教科書	【健康・リーディング】今を生きる こころとからだ 朝日出版社
参考書	
備 考	

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input type="checkbox"/>		
科目名	保健体育			担当講師	岩田 知大		
分野	基礎	授業方法	講義・実技	実務経験			
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	3年次	学 期	前期
概 要	<p>〔実技〕 楽しく練習やゲームを行い、生涯を通してスポーツに親しむ態度を身につける。 〔理論〕 年齢による身体の変化、体温、体液の水分量、血糖等の工場制とその維持による健康の保持、運動による生理的機能の高まり等を理解する。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツを行う事で他者とのコミュニケーションの重要性を理解する。 2. スポーツの目的とルールを理解する。 3. からだの動きを理解する。 4. スポーツの楽しさを理解する。 						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	運動処方の手順、ストレッチ、体カトレーニング						
2	基礎技術（バドミントン）						
3	基礎技術（ドッジビー）						
4	基礎技術（ドッジビー）						
5	基礎技術（バレーボール）						
6	基礎技術（バレーボール）						
7	基礎技術（ドッジビー）						
8	基礎技術（ドッジビー）						
9	基礎技術（ウォーキング）						
10	基礎技術（ウォーキング）						
11	基礎技術（ドッジビー）						
12	基礎技術（ドッジビー）						
13	基礎技術（ドッジビー）						
14	基礎技術（ドッジビー）						
15	基礎技術（ドッジビー）						
評価方法	レポート（100%）						
教科書	なし						
参考書	なし						
備 考	実技では、ケガに十分注意すること						